

びんぐし渚伝説

(蔵内)

その昔、蔵内村の東方、小鴨川の対岸、反土に「^{たんど}鬢^{※びんぐし}櫛」という^{ふち}渚があった。この渚は、水清くどこまでも澄みきった水を^た湛え、夕暮れどきになると夕日が水面に映え、金色に輝き美しい風景であった。

このころになると、透き通るような白い肌に黒髪を垂れ、^{びん}鬢に櫛をさした世にも稀なる美女が水浴に現れて「^{まれ}鬢櫛ないかいな〜」と^{みずあび}呼んだとか。

この渚は、昭和の初期頃までは、子どもたちの^{かつこう}恰好の遊び場で、魚捕りや^{みずあびば}水浴場として賑わった。^{にぎ}

その後、小鴨川の氾濫により、土砂で埋まり、今では水草が生い繁り、苔むした岩肌で昔を偲ぶばかりである。

(出典：上小鴨村郷土誌)



(注)

鬢：頭の左右の耳より前の髪